

# 株式会社 ドリーム産業

ものづくり技術

小規模型

## 補助事業では、日本初となる猫専用の美容器具を開発 ペット産業の健全な発展をリードする企業を目指す

### 事業内容 ペット用美容器具の製造・販売 自社一貫生産が強み

もともとはペットショップを経営する金田茂氏（現取締役会長）が、ペット乾燥器の発明を契機としてペット用美容器具の製造販売に業種転換し、全国に販路を拡大してきた。来年（2018年）6月に創業50周年を迎え、業界内では老舗に分類される。

主な製品は、犬・猫用の美容関連製品全般、ドッグバス、ドライヤー、テーブル、消毒器、美容シザー、ステンレス犬舎などであり、「ペットに優しい」をコンセプトに製造を行っている。全国の代理店経由でペットショップ・サロンに販売

するほか、グルーミングスクールにも納入されている。納入後は、メンテナンスも行っており、納入後のフォロー体制も充実している。

同社の特徴としては、ペット関連製品の「企画→設計→製造→販売」までを自社で一貫して手掛けることが挙げられる。このように自社で一貫生産できる企業は他に無く、大手企業との共同開発も進めることができている。

### 補助事業 高齢犬への適用も視野に入れた 業界初の猫用の美容器具の開発

日本では人の高齢化が進み、それに伴って散歩が必要な犬から散歩の必要がない猫へと飼うペットが変化してきている。ここ最近、ペットとしての猫が増える中で、犬のトリマー（ペットの毛を刈りそろえる人）に比べて猫のトリマーが少ないという状況があり、メーカーとして猫のトリミング技術を伝えていくお手伝いと同時に猫用の美容器具の開発が求められていた。

また、ペットとしての犬に目を向けると、高齢犬が増えてきている。高齢犬は体力もないため、若い犬と同じようなトリミングを行うと負担が大きくなってしまふ。高齢犬の負担を減らせるような美容器具の開発もまた求められていた。

そこで、今回の補助事業では、日本初となる猫専用のド

ライヤーと新たなシャンプースタイルの提案と製品の開発を行い、それらを高齢犬にも適応できるような開発も試みた。



▲日本初、猫専用ドライヤー

### 株式会社 ドリーム産業

代表取締役 金田 崇司  
〒640-0112 和歌山市西庄472-1  
TEL: 073-451-0012 FAX: 073-451-0017  
URL: http://www.dreamsnet.com

〈業種〉ペット用美容器具の製造  
〈創業〉1968年6月  
〈資本金〉10,000千円  
〈従業員〉18人

### 成果

## 猫の行動原理を徹底的に調べて開発した美容器具で 新たな市場を創造していく

猫専用ドライヤーとシャンプーマシンの開発を進めていくにあたり、猫の特性を把握することに特に力を入れた。猫自体の特性はあまり深く知られていないうえに、犬と猫ではその性質がまったく異なるため、猫学や動物行動学に基づいて猫の行動原理を調べ上げた。専門家と猫のトリミングとはいかなるものかを徹底的に追及しながら、試作・開発を進めた。

試作・開発の結果、モーター音が静かで、猫の嫌う色や形状は避けた機器に仕上げることができた。強い刺激や長時間の作業を避けることができるため、高齢のペットのニーズを満たすことが可能である。

これまでに猫専用のドライヤーとシャンプーマシンは出回っていないため、同社が市場を創っていくことになるが、

販売台数も好調に推移しており、実績も上がってきている。ユーザーからの評価も上々であり、今後の販路拡大も期待できるようだ。



▲シャンプーできないシニアや病気のペットに

### 今後の展開

## ペット産業を牽引するための努力を惜しまず、 創業50周年を機に新たな飛躍を目指す

日本、アメリカ、ヨーロッパは、犬・猫をペットとする文化があり、ペット先進国とされるが、それぞれ成熟期を迎えている。それぞれの地域の異なるペット文化を知ることで、今後のペット市場の動向を的確に捉え、新たな製品開発につなげていきたいとしている。

特に日本では、ペット共生マンションやペットを考慮したリノベーション、ペットと余生を楽しめる介護施設などペット業界だけの話だけでなく、異業種との協力が必要になってきているようだ。また、異業種とのコラボレーションから

様々な相乗効果も期待できる。そのような中、同社では大手企業とタイアップすることにより、人とペットが快適に暮らせる環境作りを推進している。今後もペット産業を発展させていくための努力は惜しまず、ペット産業の健全な発展のために尽力し、少しでも牽引できればと考えている。

さらに、来年（2018年）に同社は創業50周年の節目を迎える。これを機に工場の改築を予定しており、「made in Japan」の製品より、「made in ドリーム産業」の製品を支持してもらえるような製造ができる体制の工場を目指していく。



▲本社 受付



▲本社ショールーム